［第二回］お題目を唱えることの意味

今回は、**「お題目を唱える(唱題する)ことにより、なぜ救われる(成仏できる)のか」について**お話ししたいと思います。私たちの信仰の核心にも触れる内容ですので少し詳しくご説明いたします。その前に簡潔に前回のおさらいをしてみましょう。

【前回のおさらい】

*妙法蓮華経は釈尊が在世最後の８年間でご本心のすべてを説かれた最高の教え。

*釈尊はこの教えに、慈悲、功徳、智慧、悟り、救済の力などご自身の全てを籠められた。

*妙法蓮華経の五字は釈尊そのものである。

*天台大師は、**瞑想禅定修行により**自身の一瞬の心の中に地獄から仏の世界まで全ての宇宙が具わることを観じて体感体得し、仏の心の中の世界と自身のそれとが一体となると体感することを「成仏」と説かれた(理の一念三千)。

*これに対し日蓮聖人は、末法の衆生の機根は衰えており誰一人として瞑想や禅定修行による成仏は不可能である。「南無妙法蓮華経」と七字のお題目を唱え、自身の心の仏の座に本仏＝釈尊をお迎えすることにより仏と一体に成る事が可能となる。これが即身成仏(受持成仏)であると説き唱題の実践を勧められた(事の**一念三千**)。

【「南無妙法蓮華経」と唱えるとなぜ成仏できるのか】

1.仏さまは常に私ども衆生に救済の慈悲の手を差し延べてくださっているのです。それは仏の心からの願い、**「本願」**であり、お経の中にしばしば説かれております。

・例えば妙法蓮華経の「方便品」では、仏さまが教えを説く理由を次のように説かれています。

「諸仏世尊は、衆生をして仏知見(仏知見とは仏が見極められた人生の本当の意義ということ)を**開かしめ、示し、悟らしめ、仏知見の道に入らしめ清浄成ることを得せしめんと欲するがゆえに**世に出現したもう。」

・同じく「如来寿量品」というお経の中にも仏の思いが次のように説かれています。

「私(仏)は休むことなく常に思い続けているのだ『**何としても人々を無上道(この上ない究極の悟り、究極の智慧つまり仏道のこと)に引き入れ速やかに仏としての身を得させてあげたい**』と」

2. その仏のご慈悲に私たち**衆生も心からお応え「南無(帰依します)と誓願」**することで仏と一体となることができるのです。これを即身成仏(受持成仏)と言います。その仏の「本願」と私たち衆生の「誓願」が一体となる架け橋こそが「南無妙法蓮華経」の七字の「お題目」を一心に唱えることなのです。これを図であらわすと次のようになります。

仏➡慈悲の**本願**により「妙法蓮華経(五字)」を譲与➡衆生

(果)⇐ 絶対信による帰依**誓願**「南無妙法蓮華経(七字)」⇐(因)

次回のテーマは**「一念三千」**です。

日蓮宗専任布教師、身延山久遠寺大本願人　山本顕伸